

## Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 「TOKYO REAL UNDERGROUND」

### 鷹野隆大による新作を含む展示プログラム「舞踏ニューアーカイヴ展」の開催が決定

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、Tokyo Tokyo FESTIVAL の一環として、「TOKYO REAL UNDERGROUND」を実施しています。本事業は、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるべく、新たな企画アイデアを広く一般から募集し、応募総数 2,436 件の中から選ばれた 13 企画「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」の一つです。

本事業は、1960年代の日本に生まれ、世界に広まった「舞踏」をテーマにする作品公演と展示によるダンスフェスティバルです。

この度、展示プログラム「舞踏ニューアーカイヴ展」の開催が決定しましたので、下記のとおりお知らせします。本プログラムでは、写真家・鷹野隆大が舞踏家とのコラボレーションにより制作した映像作品「RED & GREEN」や土方巽、大野一雄、大野慶人の代表作を現代のダンサーが厳密に再現する疑似ホログラムなどを展示します。



記

「RED & GREEN」\_撮影：飯名尚人

- 1 会 期: 令和3年8月3日（火曜日）～8月15日（日曜日）
- 2 時 間: (平日) 14:00～20:00 (土曜日) 13:00～21:00  
(日曜日) 11:00～18:00
- 3 会 場: BUoY 地下スペース（東京都足立区千住仲町 49-11）
- 4 入場料: 無料
- 5 参加方法: 事前予約制（1時間毎に入替 各回定員20名）
- 6 予約受付開始日: 令和3年7月1日（木曜日）※予約の詳細は後日公式ウェブサイトで発表

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、実施内容等に変更が生じる可能性があります。

（裏面へ続く）

#### 問い合わせ先

生活文化局文化振興部企画調整課 電話 03-5320-7736

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 電話 03-6256-8432

## 【プログラム内容】

### ①鷹野隆大「RED & GREEN」(映像インスタレーション)

“消えゆく身体をアーカイヴする”

現代日本を代表する写真家、鷹野隆大による新作映像作品です。

写真家としての視点から映像をどう使うか、そして、身体をどのように映像の中で扱うか、ということに興味を持ち、映像作品企画『RED & GREEN』をスタートしました。今回は、石井則仁、石本華江、岩淵貞太、上杉満代、小林嵯峨、鈴木ユキオ、蝉丸、武内靖彦、向雲太郎、吉本大輔といった、当代を代表する舞踏家たちとのコラボレーションです。この作品では、壁一面に蓄光塗料が塗られた空間に、真紅の照明が焚かれ、その中で舞踏家は佇んだり、踊ったりという静かな、しかし個性的な動きを繰り返します。そこで強いストロボが発光すると、舞踏家の影が蓄光の壁に定着され、影だけが残されます。舞踏家が立ち去った後、蓄光の緑と舞踏家の黒い影だけが残り、その影もやがて数分ほどで静かに消滅します。赤と緑の光の時間軸の中で肉体の幻影が明滅する、静かな映像作品です。写真が生まれる瞬間に立ち会うかのような体験を作り出し、「消えゆく身体のアークイヴ」というダンスアークイヴの根本的な問いを投げかけます。

(アーティストプロフィール)

#### 鷹野隆大 | Ryudai TAKANO

写真家。1963年生まれ。女か男か、ホモかヘテロかといった二項対立の狭間にある曖昧なものの可視化を試みた作品集『IN MY ROOM』で、2006年に木村伊兵衛写真賞を受賞。他に同テーマをポルノグラフィカルな形式で探求した『男の乗り方』、日本特有の都市空間を集めた『カスババ』など、写真作品を通して制度化された視覚の外側を模索し続けている。今年6月29日から9月23日まで、大阪の国立国際美術館で『毎日写真/1999-2021』と題し、本格的な個展を開催する。



「RED & GREEN」\_撮影：飯名尚人

### ②飯名尚人『三』(疑似ホログラムと映像)

“三面疑似ホログラムでアーカイヴする”

舞踏の誕生に深く関わった3人の舞踏家一土方巽、大野一雄、大野慶人の代表作を現代のダンサーが完全コピーします。踊り手は川村美紀子、川口隆夫、松岡大。舞踏の精神を現代の手法で鋭く反応する、当代きっての3人です。川村が土方巽の『瘡瘡譚』(1972)、川口が大野一雄の『ラ・アルヘンチーナ頌』(1977)、松岡が大野慶人の『土方三章』(1985)を厳密に再現します。3人のパフォーマンスを三方向から同時に記録した映像を使い、三面疑似ホログラムの映像インスタレーションを制作しました。このパフォーマンスを旧博物館動物園駅で行った模様はTRUオンラインで配信中の作品「三」で公開されています。

疑似ホログラムの元になる映像は、正面、右、左の3方向からダンサーの踊りを撮影した映像を合成したものです。ダンサーの踊りの重心や足の位置を3方向から記録する映像とその合成映像を再生する疑似ホログラムは、立体的に踊りを記録し、再生することができる点で、より精細な動きのアークイヴが可能です。

(アーティストプロフィール)

#### 飯名尚人 | Naoto IINA

映像作家・演出家・ドラマトウルク・映像セノグラファー・プロデューサー。Dance and Media Japan 主宰、国際ダンス映画祭主宰。東京造形大学准教授、座・高円寺劇場創造アカデミー講師。映像・身体・言葉を用いてジャンル横断の作品を手掛ける。オンライン舞踏番組「Re-Butooh (リ・ブトー)」(NPO 法人ダンスアークイヴ構想)では、演出・構成・撮影・編集を担当している。



「三」\_撮影：飯名 尚人

### ③石原葉『舞踏出来事ロジータ天井画』（イラスト）

“舞踏を出来事としてアーカイヴする”

TRUエキシビションのオンライン展示作品「舞踏出来事ロジータ」は、舞踏が様々な領域で活躍してきたことを「出来事」として年表にしています。「舞踏出来事ロジータ」に挿入された石原のイラストは写真や映像資料から得た「印象」を核にして描かれています。本展では、人の心に残る「記憶」や「印象」を伝えるイラスト49点を、天井画として展示します。

（アーティストプロフィール）

石原葉 | Yo ISHIHARA

美術家。1988年生まれ。2020年東北芸術工科大学大学院芸術工学専攻博士課程修了。「あなたたち」と「わたしたち」「あなた」と「わたし」の間に引かれる目に見えない境界、無自覚なフィルターをテーマとして絵画制作を行っている。直近の活動として、2020年靖山画廊にて5月にオンライン、8月に同画廊にて個展「Who」を開催。ほか展覧会多数。また一方で集団による制作、活動も継続的に行っている。



#### 【関連イベント】

「舞踏ニューアーカイヴ展」関連トークと舞踏家展示※ を TRU オンラインで配信

日時：令和3年7月3日（土曜日）19:30配信開始（約60分） [～8月15日まで視聴可能]

参加方法：視聴無料・TRUオンラインに要登録

トーク出演：鷹野隆大、飯名尚人、溝端俊夫 舞踏家展示：小林嵯峨

ディレクション：飯名尚人

配信：NPO法人LAND FES

参加登録リンク <http://www.tokyorealunderground.net/ticket.html>

※舞踏家展示とは、トークが進行する同じ空間で、舞踏家がまるで彫刻のように佇み、美術作品のように見られる存在として展示され、舞踏が作り出す空気感の中でトークが進行する、新しいタイプのイベントです。

#### 【Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 TOKYO REAL UNDERGROUND 開催概要】

- 1 会 期 令和3年4月1日（木曜日）～8月15日（日曜日）
- 2 会 場 オンライン及び都内複数箇所
- 3 内 容 展示プログラム及び公演プログラム
- 4 観 覧 無料、オンラインプログラムの視聴は登録制
- 5 主 催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
- 6 企画・制作 NPO 法人ダンスアーカイヴ構想

※ 本事業は新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底して実施します。また、ご来場のお客様へも感染症対策へのご理解・ご協力を賜りたく、公式ウェブサイトに記載の内容をご一読いただき、遵守くださいますようお願い申し上げます。

「TOKYO REAL UNDERGROUND」公式ウェブサイト：<http://www.tokyorealunderground.net/>



## 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。



Tokyo Tokyo FESTIVAL  
公式ウェブサイト

## 「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。

国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し展開しています。



Tokyo Tokyo FESTIVAL  
スペシャル13 ウェブサイト

本件は、「ホストシティ Tokyo プロジェクト」に係る事業です。

「 カテゴリー：魅力発信      プロジェクト名：東京文化プログラムの拡充・推進 」